

保健体育教師の信念に関する一考察
ー現職教師と教員免許取得希望学生の比較を通してー
A study of health and physical education teacher's belief
- A comparison between professional teachers and students wishing teacher's license -
1K09B601-5 松田 浩幸
指導教員 主査 吉永 武史 先生 副査 友添 秀則 先生

【Ⅰ. 問題の所在と目的】

社会状況の変化に合わせて子どもたちを取り巻く環境は日々刻々と変化し、学校や教師たちはその変化に合わせた柔軟な教育を行うことが求められている。このような背景の下、教師が教育活動をする際に不可欠な要素として信念があると考えられる。本研究の目的は、保健体育教師の教育活動を根拠で支えている信念という概念に着目し、保健体育教師の信念とイラショナル・ベリーフの実態を明らかにすることである。

【Ⅱ. 信念に関する先行研究】

我が国での保健体育教師の信念に関する具体的な研究はほとんどみられない。そこで信念研究の進展がみられなかった理由として、体育の周辺性、体育科教育学の研究において基礎的研究に重きが置かれてこなかったこと、学校が教科としての信念形成を求めていること、の3点を挙げ考察した。また、保健体育教師の役割意識に関する先行研究から管理主義的思考を導き、イラショナル・ベリーフの存在に迫った。

【Ⅲ. 調査研究1】保健体育教師の信念構成

(1) 方法：2012年7～10月にかけてK県の保健体育教師37名、教職課程履修中の学生100名に質問紙を配布し、保健体育教師36名（男性26名、女性10名、平均年齢40.2歳）、学生93名（男性59名、女性34名、平均年齢20.9歳）の有効回答を得た。質問紙は、信念とその形成過程に関する自由記述式とした。分析方法は、KJ法（川喜田, 1967）による質的分析を行った。

(2) 結果と考察：保健体育教師の信念は6観点で構成され、それぞれが独立して存在しているだけでなく有機的な繋がりをもっていることが推察された（図1参照）。また、これらの信念の形成過程に着目すると、信念は自身の経験により形成されていくものであることがわかり、それは教師自身が生徒の時代を含めた「学校生活の中で形成されるもの」であると考えられた。また、運動・スポーツに着目した信念の存在は確認できたが、その他に信念に保健体育教師特有のものと言える点はみられなかった。保健体育教師と学生の比較においては、一部学生に批判的検討の必要性がある信念が散見されたものの、信念とその形成過程のどちらにおいても保健体育教師と大きな違いはみられなかった。

【Ⅳ. 調査研究2】保健体育教師のイラショナル・ベリーフ

(1) 方法：2012年7～10月にかけてK県の保健体育教師37名、教職課程履修中の学生100名に質問紙を配布し、保健体育教師31名（男性23名、女性8名、平均年齢41.3歳）、学生83名（男性55名、女性28名、平均年齢20.9歳）の有

効回答を得た。質問紙は、属性確認としてフェイスシートを設け、河村・國分（1996）が作成した「教師特有の指導行動を生むイラショナル・ベリーフ尺度」（64項目・4件法）を一部文言の修正をして使用した。本尺度は、得点が高い方が「ねばならない」型のベリーフが強いことを表している。

(2) 結果と考察：保健体育教師特有のイラショナル・ベリーフの特徴として「不確実性」という概念が検出された。これは確実な指導理論や技術が存在しないという体育授業の構成の難しさを表した結果と言える。保健体育教師の本尺度得点（平均値:3.07, SD:0.28）と学生の本尺度得点（平均値:3.04, SD:0.27）において t 検定を行った結果、有意差はみられなかった。また、それぞれの各属性について分散分析を行った結果も有意差はみられなかった。保健体育教師のイラショナル性の高い領域を特定し、その領域の平均値を使用して学生と比較した結果、「教師の周りの同僚との同調傾向」にて保健体育教師の得点（3.31）が学生の得点（2.89）に比べて有意に高いことが示された（ $t=4.39, df=74.1, p<.001$ ）。これは小泉（1996）が明らかにしている保健体育教師の人間関係の濃密さが改めて示された結果であり、教師と学生の学校現場に対する認識の差が浮き彫りになったものと言える。

【Ⅴ. まとめと課題】

保健体育教師の信念は、学校を通して得た経験から形成される。また、保健体育教師のイラショナル・ベリーフは、属性や経験とは異なる社会的背景が内在していることが示唆された。これは保健体育教師に暗黙裡に規定される「役割意識」や「保健体育教師のあるべき姿」から生じているものと考えられる。教師行動を規定する根拠に信念があると考えられると、教職課程で保健体育教師の信念を形成していくことが、その後の教師人生において重要な役割を果たすはずである。今後、保健体育教師として望ましい信念を定義するとともに、その信念形成を促す教職課程カリキュラムの検討をしていくことが必要と考えられる。

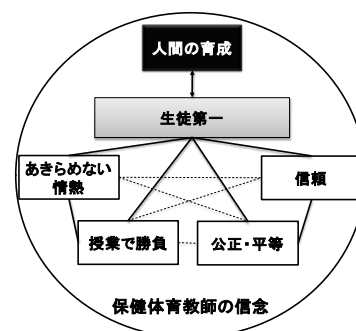


図1. 保健体育教師の信念についての概念図